

堀川について

堀川は1610年の名古屋城築城とあわせてつくられた川で、まちとの成長をともにしながら、今も名古屋のまちの中を流れています。

そんな堀川沿いを歩いてみると、普段気にもとめないようなところに名古屋の歴史をひも解く鍵が隠されていたりします。

お散歩しながら名古屋の歴史の一端に触れてみてはいかがでしょうか。もしかしたら名古屋のまちの見方が変わるかもしれませんよ。



堀川全体MAP



Around the Horikawa

堀川ナビ!

黒川エリア 名古屋城エリア

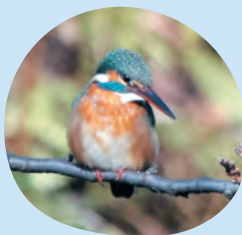
探索マップ



Website /



KUROKAWA AREA



豊かな自然が四季を彩る、憩いの場

黒川エリア

明治期に延長された堀川の上流域で、工事を担当した技師の名前にちなんで黒川と呼ばれています。鳥や魚など自然豊かな堀川を身近に感じながら桜並木沿いを散策することができるエリアです。

定番イベント

- ▶ 黒川友禅流し(4月上旬)
- ※3月下旬になる場合もあります



堀川ナビ!!



名古屋城エリア

歴史と文化の香るエンタメ空間

堀川は、名古屋城築城と時を同じくして、城下で必要なさまざまな物資を運ぶためにつくられました。お城と堀川のつながりを感じつつ、名古屋城のイベントや金シャチ横丁でグルメなどを楽しむことができるエリアです。

定番イベント

- ▶ 名古屋城春まつり(3月-5月)
- ▶ 名古屋城夏まつり(8月)
- ▶ 名古屋城秋まつり(10月-11月)
- ▶ 名古屋城冬まつり(1月)

堀川ナビ!!



NAGOYA JYO AREA

名古屋城エリア

18 御深井御山之内

中土戸橋の北西に位置する城西五丁目は、かつて御深井の庭の前衛として設けられた砦で、御深井御山之内と呼ばれ、御側組御足軽屋敷となっていました。

19 中土戸橋

江戸時代から架けられていた由緒ある橋で、御深井の庭を囲む塀に造られた出入口(土戸)が名前の由来になっています。現在の橋は、昭和7年(1932)にかけ替えられたものです。

20 名古屋城

徳川家康が西の豊臣家に備えるため、1609年に築城を命じ、1612年に完成しました。現在は、復元された本丸御殿や金鯱が輝く天守閣などの見どころのほか、イベントや展示も充実しており、名古屋を代表する観光名所となっています。

21 金シャチ横丁

名古屋城の魅力を存分に楽しめるエンターテインメントスポットです。義直ゾーンでは伝統的な名古屋めしや工芸品を堪能でき、宗春ゾーンでは新しい食文化を体験できます。

22 長畝

名古屋城三の丸の一角は、西側への備えで堀川と空堀の間に土手(畝)が造られていました。1860年にこの長畝に桜が植えられると、花見の名所となり、対岸には茶屋・料理屋・菓子屋ができ賑わったと言われています。

23 堀川駅跡

かつて、景雲橋の北東、お城の外堀内に瀬戸電(後に名鉄瀬戸線)の堀川駅がありました。この駅は堀川での解輸送と大曽根や瀬戸との鉄道輸送を連結する重要な駅でした。

24 景雲橋

大正2年(1913)に架けられた橋で、御幸道路が通る橋なので、めでたいことの兆前で現れる雲「景雲」という縁起の良い名が付けられました。現在の橋は昭和44年(1969)にかけ替えられたものです。

16 御深井の庭

名古屋城の北に広がる名城公園は、かつては一般の人には入ることのできない、お殿様の庭でした。時代に合わせて姿を大きく変えながら、現在は市民の憩いの場として歴史を今に伝えています。

17 名城公園

四季折々の花々が楽しめる花壇や広大な芝生広場、おふけ池などがあり、名古屋の自然と歴史を感じながらリフレッシュできる緑豊かな公園です。

堀川沿い見どころMAP

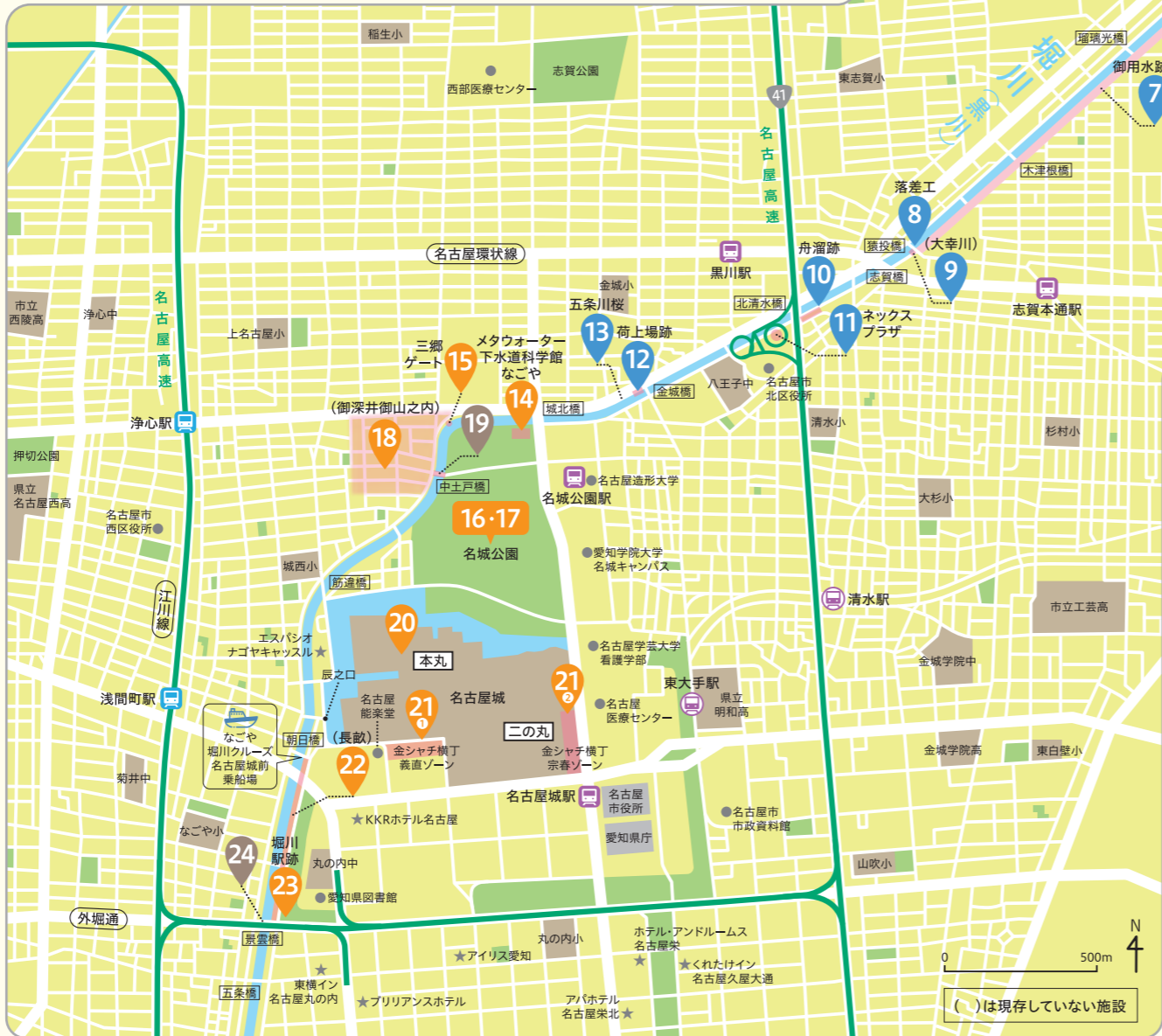
～黒川、名古屋城エリア～

14 メタウォーター下水道科学館なごや

普段目にするのが少ない下水道の仕組みや役割について、体験を交えながら楽しく学ぶことができる施設です。子どもから大人まで楽しめます。

15 三郷ゲート

かつて堀川(黒川)の支川で、現在は下水として暗渠化された三郷幹線の雨水吐です。ふだんは閉じられています。大雨が降ると勢よく水を吐き出します。



★ 宿泊施設

駅 「鶴舞線」 地下鉄「名城線」 地下鉄「上飯田線」

名鉄「小牧線」 名鉄「瀬戸線」

地下鉄・市バス位置図

QRコード: LUUP, カリテコバイク, チャリチャリ



黒川エリア

1 庄内用水頭首工

庄内川の水をせき上げて、堀川や庄内用水に取水する施設です。昭和29年(1954)に完成し、木と石で堰を造っていた時に比べ、安定した取水と、洪水時にも安全に水を流すことができるようになりました。

2 庄内用水元杵樋門

明治43年(1910)に築造された取水施設です。背の高いトンネルや、内部に取り付けられた鎖を通す環などが、かつてこの地が名古屋と犬山を結ぶ水上交通のメッカであったことを現在に伝えています。

3 瀬古の大井戸

戦後の食糧危機を支えた名古屋市内最大級の井戸です。直径6m、井筒の高さが3mあります。当初の役割を終えた現在は、堀川(黒川)の環境維持用の水源として活用されています。

4 矢田川伏越

庄内川から取水した御用水を名古屋城のお堀まで流すために造られ、その後何度も改築されました。流砂が多い矢田川より、維持管理がしやすい庄内川の水だけを利用するため、矢田川の下にトンネルを造って庄内川の水を通しています。

5 天然プール

現在、三階橋ポンプ所が建っている場所には、庄内川から取水した水を庄内用水や黒川(堀川)、御用水などに分水するための池がありました。この池は天然プールと呼ばれ子どもたちの絶好の遊び場として賑わっていました。

6 黒川樋門

分水池から黒川(堀川)に流す水量を調整するために造られました。分水池は埋め立てられましたが、黒川樋門は昭和55年(1980)に再建され、明治の樋門のようすを伝えています。

7 御用水跡街園

名古屋城のお堀や幅下水道に水を送るための御用水が姿を変えて、緑豊かな水辺の散策路として多くの人に利用されています。

8 落差工(黒川の滝)

昭和8年(1933)に完了した黒川の大改修(猿投橋～朝日橋)によってできた滝です。ここを境にして堀川上流ののどかな雰囲気から都市河川へ様相を大きく変えていきます。

9 大幸川(痕跡)

かつて名古屋市の北部の農業用水や排水に利用され、堀川(黒川)の一部にもなった大幸川。現在は下水道として暗渠化されていますが、堀川(黒川)への排水口が、その痕跡を示しています。

10 黒川の舟溜跡(北清水親水広場)

名古屋の産業と人の暮らしを支えるため、犬山と名古屋を結ぶ舟を通行させるために開削された黒川。かつて多くの船が行き来し、舟溜(船着場)だった場所が、現在は親水広場として整備されています。

11 ネックス・プラザ

名古屋高速道路の魅力を感じられる施設で、最新の交通技術や安全対策を学べる展示が充実しており、子どもから大人まで楽しめます。

12 金城橋の荷上場跡

かつて堀川が幹線輸送路として利用されていた時代、舟運と陸運を結んだ物揚場で、堀川が果たした大切な役割を今に伝えています。

13 五条川桜

昭和57年(1982)に、五条川の改修工事で、五条川の改修工事で、伐採される桜並木を救いたいとの思いから、春日町(現:清須市)からこの場所に移植されました。